



長生きできる町づくり



小林 靖幸さん
(与能)

私は十数年前に長男の小学校入学を機に芳賀町にUターンしました。地元に戻ってまず感じたことは、以前と同じように受け入れてくれる人の温かさでした。東京に住んでいた頃は、隣人の顔も知らないほど地域との関係が希薄でしたし、若い頃は煩わしさも感じていました。しかし、家族を持ったことで大切さを感じ始めました。

都市型の利便性を求めて若者が流出している一方で、人とのふれあいを求めて地方に移住する人たちも少なくありません。こうした人たちを積極的に支援する自治体も数多くあります。また、高齢化が問題視されていますが、高齢者が多いということは、言い換えれば長生きができる町ということです。終の住処としての環境が整備されれば、人は集まってくるはずで、都市型の利便性の模倣ではなく、福祉施設及びサービスの拡充、移住希望者支援の取り組みをより一層お願いします。

町政の舵取りに期待



阿久津政光さん
(芳志戸)

私も還暦を迎える年齢になりました。以前は60歳から年金が支給されていましたが、今は支給年齢が60歳から65歳へと段階的に引き上げられており、不安の中で生活しています。

そこで今年4月に当選された新町長、町議の方々にお願いがあります。

まず、少子高齢化対策です。各集落を見てみると、子どもが少なく、近い将来独り暮らしの世帯や、さらには空き家が増えてしまうのではないかと心配になります。

次に農業の将来性についてです。現在米価が安く、減反もあり、その上農機具設備などが高いので後継者がどんどん減ってきています。芳賀町には恵まれた農地がありますが、採算が取れないので若者に託すことができません。

少しでも不安が軽減し安心して暮らせる芳賀町となるよう、明るい希望をもって生活できるよう、町政の舵取りをお願いします。

議会傍聴女子しませんか



岡田 順子さん
(西高橋)

先日、久しぶりに芳賀町議会を傍聴しました。8年ぶりに町長・町議選が行われ迎えた議会、傍聴席が満席になることを予想して早めに出かけました。

静まり返った傍聴人出入口、不安になりながらもドアをあけてみました。開会までには集まってきましたが、傍聴人は思ったより少ない。議会の内容はテレビ放映や広報紙などで知ることはできますが、議場内の空気・質問・答弁の一言一言の応酬、その緊張感は、そこにいてわかるもの。活気ある傍聴席は議場全体を盛り上げるのではないかと思います。時間をつくって傍聴してみませんか。議会傍聴女子「ぎーじょ」増えるといいですね。

3階のフロアへ入って感じたのですが、議場へ入る前の出入口ドア周辺に、開会前の15～20分の間、案内や説明の方がいるといいと思います。また、一般質問の日は来庁された人にもわかるよう何箇所かに案内を掲示してはいかがでしょうか。